

ポインセチア *Euphorbia pulcherrima* Willd. トウダイグサ科

1 経営的特徴と導入方法

ポインセチアは、短日条件下で総苞状の小花を付け、その周辺に濃赤色の花苞葉をつけ、古くからクリスマス用の鉢花として重要な鉢花となっている。

経営的には、栽培期間が比較的短く、的確な開花調節ができ、施設の利用計画を立てやすく、大量生産が可能である。近年は、小鉢化が進み、4号あるいはそれ以下のものなどが増加している。

主な出荷時期は、11月下旬から12月中旬であるが、本県においては暖地の出荷が本格化する前の11月以前の出荷を心がける。そのことにより暖房経費の節減にもつながる。

表1 10a 当たり旬別所要労働時間（単位：時間）

月	1 月			2 月			3 月			4 月			5 月			6 月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
時間																		

7 月			8 月			9 月			10 月			11 月			12 月			合計
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
50.0	50.0	50.0	140	168	29.0	13.0	11.0	11.0	23.0	21.0	21.0	23.0	41.0	61.0	63.0	36.0		811.0

(注) 1. 山梨県農業経営指標 I (果樹・花き) (1999. 3)

2. 収穫鉢数5,700鉢/10a 11~12月出荷

2 生理生態的特性と適応性

ポインセチアはトウダイグサ科に属する永年生木本で、メキシコの高地原産である。気候条件的には、常春の状態である。なお、生育適温は20~30℃と高く、寒さには非常に弱い。特に霜に当たると枯死してしまう。

逆に暑さに対しては非常に強く、35℃の高温でも旺盛な生育をする。最低温度10℃以上の施設内では越冬が可能である。春になり、温度が上昇してくると苞を含む上部の柔らかい葉腋から新芽が動き出し、伸長する。木化部分からの潜芽は動きにくい。

短日植物であるが、温度により限界日長は変化する。高温下では強い短日を必要とし、自然温度条件下では10月頃から花芽分化に入る。花芽分化に必要な短日条件の日数、つまり早晩生については品種により異なるが、おおよそ60日程度である。人為的に短日処理を行う場合は厳密な暗黒が必要で、途中中断された場合は、開花期が極端に遅れる。繁殖は、普通挿し木によって行われるが、現在作られている品種は、ほとんどパテント付

き品種で、種苗の導入は発根苗の購入によって行われる。

3 作型と品種

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
促成栽培	<div style="text-align: right;">#シェード# Ω — 加温 — Ω</div> <div style="text-align: center;">V◎ ————— </div>											
普通栽培	<div style="text-align: right;">Ω — 加温 — Ω</div> <div style="text-align: center;">V◎ ————— </div>											

※ 発根苗購入利用

(1) 作型

作型は大きく分けて、促成栽培、普通栽培の2つに分かれる。促成栽培は11月出荷、普通栽培は12月出荷を目指した作型である。本県における主要な作型は普通栽培が多い。

(2) 品種：フリーダムシリーズ、V-10シリーズなど

4 栽培

(1) 育苗

ア 苗の確保

パテント付き品種が主流のため、栽培契約上発根苗を導入することから栽培が始まる。作付けする品種、種苗会社により、苗の予約受付期間が異なるため、注意する。

イ 苗到着後の管理

ポインセチアの苗が到着する時期は高温期であるため、輸送途中に蒸れやすく傷みやすい。そのため、苗が到着したら直ちに梱包から取り出し、たっぷりとかん水して風通しの良いところに置く。

(2) 鉢上げ準備

ア 培養土の作成

鉢上げ用土については、水はけ、水持ちが良く、病害虫のおそれのない清潔なものが望ましい。特にポインセチアの根は過湿状態に置かれるのを嫌い、低温期ではすぐに根が傷む。このため、必要以上に水が停滞しないような用土を用いる。用土は孔隙が多く、粒子構造が均一で、毛細管がつながったものがよい。しかし極端に荒い粒状の土を用いる必要はない。なお、0.1mm以下の微塵が多い土では、水が停滞しやすいため、過湿による根の傷害がしやすい。以上のことから栽培途中に用土が分解し、粒子が細かく崩れ

るようなものの使用は避けたいところである。赤玉土のような粒状で、かつ崩れにくい土をベースに用いることができれば理想であるが、単価の面で困難である。そこで、ベースとなる土は堆肥や腐葉土などの有機質資材と混入し、数年堆積をして団粒化を促進させたもの（培養土）を用いるようにする。これをベースにさらに腐葉土やピートモスを混入する。目安としては培養土5割に対し、腐葉土3割、十和田砂やパーライトを2割程度、さらに全体量の1割程度もみがらくたん等を混入すれば良い。なおpHは6.0程度まで調整をする。

(3) 施肥

用土1リットル当たりの施肥量は、100日程度肥効のある緩行性被覆肥料を3g程度あらかじめ用土に混入しておくが良い。このほかに補完的に液肥による追肥を行う。根が弱いこともあるため、濃いものは用いず、薄目のものを用いる。

(4) 鉢上げ（定植）

苗到着後なるべく早くに定植を行うが、ポインセチアの場合、シクラメンなどと異なり鉢増し作業はあまり行われなない。5号鉢仕立て程度までは、発根苗をそのまま5号の仕上げ鉢に定植する。

5号鉢の場合、促成栽培で7月中旬、普通栽培で8月の定植となるが、3～4号鉢程度の小鉢に仕立てる場合は、定植時期をこれよりも2～3週間遅らせる（過度に成長しすぎるのを防ぐため）。定植は株がぐらつかない程度の深さに植え付ける。



図1 定植直後の状況

(5) 鉢上げ後の管理

ア かん水

定植直後は鉢内の用土を落ち着かせるため、たっぷりとかん水する。その後は鉢土の表面が白っぽく乾きはじめてから、次のかん水を行う。前にも述べたようにポインセチアに根は過湿に弱いいため、根腐れが起きないように気をつける。また、過度に乾燥しても根が傷み生育不良の原因となるため、注意をする。秋

ロ 以降の低温期には特に注意を要する。

イ 温度管理

前にも述べたように20～30℃と比較的高い温度を好むが、蒸れには弱いいため注意をする。蒸れると下葉の落葉や、灰色かび病が生じるため、多湿にならないよう注意をする。夏場の高温時はハウスサイドを解放し通気を図る。また、ハウスサイドを閉め切る季節には、攪拌扇や暖房機の送風機能を使い、施設内の空気が攪拌されるようにする。加温の目標温度は、日中20～24℃、夜間16℃ほどである。

日光を非常に好み、また、高い温度を好む植物であるため、夏場の遮光は原則必要ないが、定植直後、葉の萎れがみられるときは活着まで数日間遮光をして必要以上の高温にならないようにする。この場合も、遮光率が少ないものを用い、徒長を防止する。

ウ 摘心

定植後10日から2週間程度もすると、十分活着して新葉が展開するが、あまり遅くならないうちに摘心を行う。摘心する位置は、葉を5～6枚残した柔らかい先端部分のソフトピンチである。これはポインセチアの分枝は先端部の若い部位で活発に行われるためである。摘心時期を逃し茎葉が伸長した場合において、同様に葉を5～6枚残し茎の途中から上部を切除するようなハードピンチになれば、分枝数が減るうえに枝ごとの生育量に強弱が生じて草姿がまとまらなくなるため注意をする。

エ わい化剤処理

徒長防止と、茎葉を堅くし、また草姿を整える目的で、わい化剤を用いる。よく使われるわい化剤には、ビーナイン、スリトーン、ボンザイなどがあるが、品種によって処理する濃度が異なり、また濃度を間違えて効きすぎた場合、薬害や開花遅れ、苞を異様に縮小させて商品にならないケースが見受けられる。また明らかにわい化処理に失敗した株が販売されているのもみられる。品種、薬剤共に不安な場合には数鉢レベルで試験散布を行い、安全性を確認してから用いるようにする。なお使用する場合の目安であるが、前にも述べたように、品種や薬剤で使用量が大きく異なるためここでは割愛する。

最近では、安全にわい化剤処理をしたのと同様な効果を得るため、D I F（昼夜温差）技術を用いるケースが出始めている。これは日中の温度を抑え、夜間の温度を上げることにより、節間伸長を押さえる効果がある。ただしこの処理を行うためには、それなりの設備が必要となるため、まだ一般的ではない。

5. 主要病害虫とその防除対策

(1) 病 害

根腐病 (*Pythium* 属菌)、灰色かび病、苞枯病 (*Alternaria alternata*) が知られている。

(2) 虫 害

コナジラミ類が多発する。幼虫が葉裏に多数寄生し、排せつ物にすす病が併発して商品価値がなくなる。外部からの侵入を防ぐとともに、初期防除に努める。

6 調製・出荷

苞葉が着色し、苞葉に包まれている中心の花が1～2輪開いたとき（雄ずいが確認されたとき）が出荷時期となる。開花が進むと花粉で苞葉が汚れるため、適期を逃さないようにする。出荷前の最終調整で枯れ葉を取り除き、鉢の汚れを拭き取る。

出荷時には、葉や苞葉の傷みを軽減するため、必ず出荷袋に入れるが、輸送中の蒸れを防ぐため、なるべく有孔の通気性のあるものにする。寒さによって傷みやすいため、トレーごと段ボール箱のような保温性のある容器に入れて出荷する。なお、保温効果とは矛盾するが、やはり蒸れによる落葉を防ぐため、完全に密閉される段ボール箱よりも、通気口のあいているものの方がよい。輸送に使用するトラックが防寒対策がなされているときは、トレーのままの出荷でも良い（ただし出荷袋に入れる）。



図2 出荷前の状況

参考・引用文献

- 1) 長村智司、「農業技術体系花卉編11 花木・観葉植物」 農産漁村文化協会（平成6年）
- 2) 水沼一幸、荻野時男、「鉢物栽培技術マニュアル 4巻」 誠文堂新光社（平成6年）

ポインセチア 栽培ごよみ

月	旬	促成栽培		普通栽培		栽培の要点	摘要																																																																																				
		生育	作業	生育	作業																																																																																						
2	上					<p>1. 作型</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>月</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>促成栽培</td> <td colspan="13" style="text-align: center;">#シート#</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="13" style="text-align: right;">Ω加温Ω</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="13" style="text-align: right;">V◎× ——— □</td> </tr> <tr> <td>普通栽培</td> <td colspan="13" style="text-align: right;">Ω加温 - Ω</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="13" style="text-align: right;">V◎× ——— □</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) V : 苗導入、◎ : 定植、× : 摘心、□ : 収穫</p> <p>2. 苗の準備</p> <p>(1) 予約 : メーカーにもより異なるが、1年くらい余裕を持って予約。</p> <p>(2) 導入 : 定植直前に納入されるようにする (苗質の老化と徒長防止)。</p> <p>3. 用土の準備</p> <p>(1) 長期間にわたり物理性が変化することのない用土を用いる。</p> <p style="padding-left: 20px;">団粒化された培養土をベースにする。比率は培養土5割、腐葉土3割、十和田砂2割、さらに全体量の1割もみがらくんたんを混入。</p> <p>(2) 緩効性の化成肥料を用土1リットル当たり3g程度混入。pHは6.5を目標に矯正する。</p> <p>4. 定植</p> <p>(1) 仕上げ鉢に直接定植とする。</p> <p>(2) 株がぐらつかない程度の深さに定植する。。</p> <p>5. 定植後の管理</p> <p>(1) 温度 : 高い温度を好むため、最低温度を16℃以上とする。できれば20℃程度を目標に加温する。</p> <p style="padding-left: 20px;">促成栽培の場合は短日処理期間中、蒸れないようにする (徒長防止)。</p> <p>(2) かん水 : 活着まではややかん水を控えるが、活着後の初期成育からは十分にかん水を行う。過湿、過乾燥は根の生育に悪影響を及ぼす。</p> <p>(3) 短日処理 : 促成栽培では、9月頃から9時間日長程度にして花芽分化を促す。花芽が確認され、着色が始まる頃まで処理をする。</p> <p>7. 出荷</p> <p style="padding-left: 20px;">苞葉が着色し、中心部にある花が1~2輪咲いたときとする。咲きすぎたものは花粉により苞葉を汚すため注意する。輸送中における葉や苞葉の痛みを回避するためスリーブに入れて出荷する。</p>		月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	促成栽培	#シート#														Ω加温Ω														V◎× ——— □													普通栽培	Ω加温 - Ω														V◎× ——— □													
		月	2	3	4		5	6	7	8	9	10	11	12	1																																																																												
	促成栽培	#シート#																																																																																									
	Ω加温Ω																																																																																										
	V◎× ——— □																																																																																										
普通栽培	Ω加温 - Ω																																																																																										
	V◎× ——— □																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
3	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
4	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
5	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
6	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
7	上		苗導入																																																																																								
	中		定植		苗導入																																																																																						
	下		摘心		摘心																																																																																						
8	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
9	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
10	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下		出荷始め																																																																																								
11	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下				出荷始め																																																																																						
12	上																																																																																										
	中																																																																																										
	下																																																																																										
	上																																																																																										
	中																																																																																										